
人生は100歳からよ！

栗山ふにねこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人生は100歳からよー！

【コード】

N9064N

【作者名】

栗山ふね

【あらすじ】

2007年7月～2010年4月に掲載されていたあの短編小説が、満を持して復活！40年前に会社を辞め、今は年金暮らししている100歳の老婆、角能美由かどのみゆ。TVに出てチヤホヤされているグラビアアイドルを見て腹を立てた彼女はなんと、自らのヌード写真集を出す事に！

「ふう、やつぱり日本茶はいいわねえ」

角能美由は日本茶を飲んでいた。

美由は100歳。40年前に長く勤めていた会社を定年退職し、

今はマンションで年金生活をしている。

「さつ、この間録画した演歌の番組でも見ましょ」

美由はTVをつけた。

【つてゆうかあ～、マジありえないしぃ～。

お前そのしゃべり方やめろよ！】

画面にはクイズ番組が映り、グラビアアイドルやお笑い芸人などが盛り上がっている。

「ん？」

美由はある女に目がいった。

浅居ミヒ。

歳は25歳。髪は黒く長く美しく、顔は他のどの娘よりもかわいい。

ギャル風のしゃべり方なのが贅否両論を呼んでいるが、それ以外には非の打ち所の無いグラビアアイドルである。

ミエを見た美由は燃え上がった。

「こんな小娘が世間の注目を集めてるなんて…見てらつしゃい！私も世間の注目を集めてみせるわ！」

「で、あたしの所に来たのね」

漆崎梢恵はうんざりしていた。

梢恵は美由より50歳も下の50歳で、ベテランカメラマンである。

「そ、う、よ。若い小娘ばっかり写真集やDVDが売れたり、お笑い芸人と熱愛報道されたりするなんて許せない！許せるわけが無いわ

！」

「美由さんのお笑い芸人と熱愛報道されたいの？」

「別にされたいわけじゃないわ。とにかく若い奴ばかり注目を集めるのが気にくわないのよ！」「それからの時代はそう、老婆よ！」

「いや、どんなに文明が発達しても老婆の時代は来ないと思つわ」「何言つてゐるの？！」

「いい」と、信じていれば必ず夢は叶つわよ！..」

「まあ確かに夢と希望を信じて生きて行くのは素晴らしい事ね」「だからきっと世間はいつか老婆を認めるわ。そう、ヒゲメン、

Sが市民権を得たよ！」老婆が市民権を得るの！」

「それとこれとは話が別なような気がするんだけど……」「…

「うるさいわね！ あなた50年も生きてたら「最初から無理つて言つてたら何も始まらない」って事ぐらい分かるでしょう！ いいからやつと撮影を始めるわよ！」

「何の？」

「決まつてゐるじゃないの！ 私のヌード写真集よ！」

一瞬にして青ざめる梢恵。

「そんなの出版社が取り合ひてくれるわけないでしょ」「…

「だから自費出版なのよ！」

「どこの世界に自分のヌード写真集を自費出版するおばあさんがいるのよ？！」

「ここにいるわ！」

完全に呆れる梢恵。

「分かったわよ。ヌードでもなんでも撮ればいいんじょー！」

「そうよー、撮ればいいのよー！」

「ついして美由と梢恵による写真撮影が始まった。

撮影は毎日、美由の家や梢恵の家、廃墟になつたビルや夜の公園など色々な場所で行われた。

「ああ次はこのポーズよ。これで世の男たちのハートは私のものよ

！」

美由は裸で自身に満ち溢れたセクシーポーズをした。

しかし、彼女は100歳。

男達はときめきじこりか吐き氣を催して悶絶するしかないであろう。

「はいはい」

世にも恐ひしいセクシーポーズを写真に収める梢恵。

「ほほほほほー！ そんな写真集が売れると思つてゐるの？」

声がし、美由と同じ100歳と思わしきじこさんのが現れた。

「誰よ？」

「大沢健三郎100歳！ これからは「ちよこ不良おやじ」ならぬ

「老いぼれオカマ」の時代よ！」

「ちよい不良おやじ」とオカマは全然違つわよ！」

冷や汗を搔く梢恵。

「何言つてんのよ！ これからは「老婆」よー。」

「いいえ、「老いぼれオカマ」よー。」

「だからどっちの時代も来ないつてー。」

またしても冷や汗を搔く事になつてしまつ梢恵。

「こうなつたら勝負よ！ あたしもあんたと同じく自費出版の写真集を作るから、どつちが売れるか勝負するのー。」

美由の方をビシッと指す健三郎。

「望むところよー！」

こうして美由は以前よりも気合を入れて日夜写真撮影をするようになった。

健三郎も負けじと知り合ひのカメラマンに頼んで毎日気合を入れて写真撮影をしていた。

「最近パツシャパツシャうるさいわねえ」

大隅麻弥は音を思い出し、眉間にしわを寄せていた。

麻弥は美由と同じマンションに住む40代の主婦である。

「そうねえ。角能さんや大沢さんのお宅からよく聞こえてくるわ

麻弥の主婦仲間、永竹綾美も不愉快そうだ。

「しかも聞いた話によるといい歳してヌードになつてゐるやつよ。子供の教育に悪いわ」

同じく麻弥の主婦仲間の古館伊佐江は震えあがつた。

「これはもう抗議するしかないわね！」

「そうね！」

麻弥達は美由の家の呼び鈴を押した。

しばらくして扉が開き、美由が出てきた。

当たり前だが、服を着てゐる。

「あらっ、大隅さんに永竹さん」古館さん

「ほんにちは。今日はお話があつて來たの」

「お話？」

「あなた、最近なんだかよく分からぬいけビヌード〔写真集の制作に凝つてるみたいね」

「ええ、これからのは「老婆」よ…」

「何が「これからのは時代は「老婆」よ…」ですか！毎日毎日朝から晩まで写真を撮る音が何回も…夜も眠れませんよ…」

「しかも最近朝でも昼でも外で裸になつてゐるやつじゃないですか！」

子供の教育に悪いじやないですか！」

「その前に警察に捕まつてるだろ」という者は誰もいないよつだ。

「それで、やめろって言つにきたのね」

「もちろんよ…」

なぜタメ口だつたり敬語だつたりするのだ？

「ほほほほ…」このあたしがやめると思つて？いいこと、さつ

きも言つたとおり「これからのは「老婆」なの。あたしの自費出版写真集は飛ぶように売れて若い小娘どもが引っ込むよ…」

「何バカな事言つてんの！んな事あるわけないでしょ…」

「いいえ、あるわよ！見てらつしゃい！あたしがあんた達をあつと言わせてやるわ…」

「いいや、絶対あたし達はあつと言わない。あなたの写真集は絶対神に誓つて売れないわ！」

もつと他の事を神に誓え。

「ふんつ、いいわよ。もし売れなかつたら今月末の盆踊り大会で大沢健三郎と2人盆踊りを披露してやるから」

「言つたわね」

「今月末が楽しみだわ」

「まつ、売れないなんてバカな事ないと思つけど」

こうして美由の写真集と健三郎の写真集が発売された。が、どちらも1冊も売れずに書店から大量に返品され、2人の部屋は大量の写真集で埋め尽くされた。

「まさかこんな事が起つるなんて」

「人生何が起つるか分からぬものね」

美由と健三郎は写真集でいつぱいの美由の部屋を見てあ然とした。

「角能さん、大沢さん」

声がし、振り向くとそこには日を光らせた麻弥達がいた。

「あらつ、大隅さんに永竹さんに古館さん」

「言つたわよねえ、『売れなかつたら大沢健三郎と2人盆踊り』って」

「ちよつとあんた、何勝手に人の名前使つてんのよ！」

美由に突つかかる健三郎。

「うるさいわね！ 絶対売れると思つたから適当に言つただけよ！」

「さあ『2人盆踊り』とやらを見せてもらいましょうか」

こうして月末になり、美由と健三郎は盆踊り大会で2人盆踊りを披露する事になつた。

「ちよつとあんた、バカな事言わないでよ！ つていうかやるのはあんただけにしてよ！」

「うるさいわね！ ホントにやる事になるとは思つてなかつたのよ

「..」

「ひよー。しゃべってないで踊つなやー。」

注意する麻弥。

「お、覚えてひよー。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9064n/>

人生は100歳からよ！

2010年10月8日14時01分発行